

未来社会創造事業 探索加速型探索研究
事後評価結果

1. 領域

「個人に最適化された社会の実現」領域

2. 重点公募テーマ

場面や状況により変化するひとの幸福な状態を再現性高く計測・評価する技術に基づく新サービスの創出

3. 研究開発課題名

身体機能と家庭内ネットワーク情報による児童 Well-being 支援技術開発

4. 研究開発代表者名(機関名および役職は評価時点)

菊水 健史 (麻布大学獣医学部 教授)

5. 評価結果

評点: S 特に優れている

総評:

本研究開発課題は、身体機能の情報を解析し、且つ家庭内における家族関係を IoT 技術により可視化することで、ライフステージにわたる生きがいや Well-Being を支えるシステムの実現を目指すものである。

探索研究期間では、長年にわたり人文社会科学分野で提唱されてきた心理的 Well-Being の概念の一つである「Eudaimonia(生きがいや人生の充実度)」に関して、研究代表者自身が手がけたイヌと児童の Well-Being に関する先行研究を手がかりに、思春期から青年期における児童の Well-Being は、イヌとの関係に加え、母親との関係や地域とのつながりからも影響を受けることを初めて明らかにしたことを高く評価する。

また、腸内細菌叢と児童の Well-Being の関係を明らかにし、さらに Well-Being に関与する心尺度(向社会性、共感性)に影響を与える細菌種を、無菌マウスを用いて初めて見出したことも、優れた研究成果として認められる。

今後は、探索研究で挙げた研究成果を海外へ発信し、Well-Being に影響を与える腸内細菌種の特定を更に進めると共に、新産業創出への貢献にむけ、研究開発が発展することを期待する。

以上